

9月号 ごあいさつ

With・ポストコロナ時代の経営とは！？

日本国内総生産 GDP(4~6月期)、戦後最悪の落ち込み！！

あすなる会顧問
株式会社 山西 代表取締役社長 西垣 洋一

8月17日内閣府より公表された4~6月期の国内総生産（GDP）の1次速報は、前期比7.8%減と3四半期連続でのマイナス成長となり、年率換算では485.1兆円の27.8%減と成長率のマイナス幅は、戦後最悪の落ち込みとなりました。減少率は、コロナの影響が出始めた1~3月期の年率2.5%減から一気に拡大。これまで最大だったリーマンショック直後の2009年1~3月期の年率17.8%減も大きく上回りました（右図参照）。治療薬・ワクチンの開発・普及の状況に左右される面はあるものの、感染拡大の懸念が強く「V字回復」は難しく、日本経済の低迷は長引くとの見方が広がっています。予測ではGDPの直近のピークである19年7~9月の水準（539.3兆円）に回復する時期は、「24年」との予測が最も多くなっています。

厳しい状況が続くと予測される中、木材・住宅業界は、4~6月の住宅投資が0.2%減と他の業界と比して何とか踏みとどまっているものの、すでにコロナ禍による雇用環境の悪化が顕在化してきており、コロナ危機による住宅市況の悪化は、今後本格化するととの認識に立たねばならない状況です。（右下図参照）

【SPGH戦略 - ポストコロナ時代の対処法】

コロナショックによって経営を取り巻く環境が大きく変わりました。「ポストコロナ」はどのような時代なのか、今後も環境安定性は見込めず不安定な中でいかに成長するかが、ポストコロナ時代を生き抜く鍵です。企業も変化が求められる今、この荒波をチャンスに変えるべき取り組みが遠藤功氏の提唱する4つの戦略「SPGH戦略」です。

- S:サバイバル戦略.....身の丈を縮め、人員を適正化、ダウンサイズする。
(Survival) コストを変動費化し、身軽な経営にする。事業のコアを見直す。
- P:生産性戦略.....危機で顕在化した「不要不急」なもののデジタル化・オンライン化・リモート化を進める。「三現主義」の重要性は今後も変わらない。
(Productivity)
- G:成長戦略.....既存事業でサバイバル化しながら一方で新規事業の探索を強化する。新たな成長エンジンの確立。
(Growth)
- H:人材戦略.....「誰かが敷いたレールの上を走る」人材ばかりでは生き残れない。
(Human Resource) 「新たなレールを敷くことができる」人材を育成する。

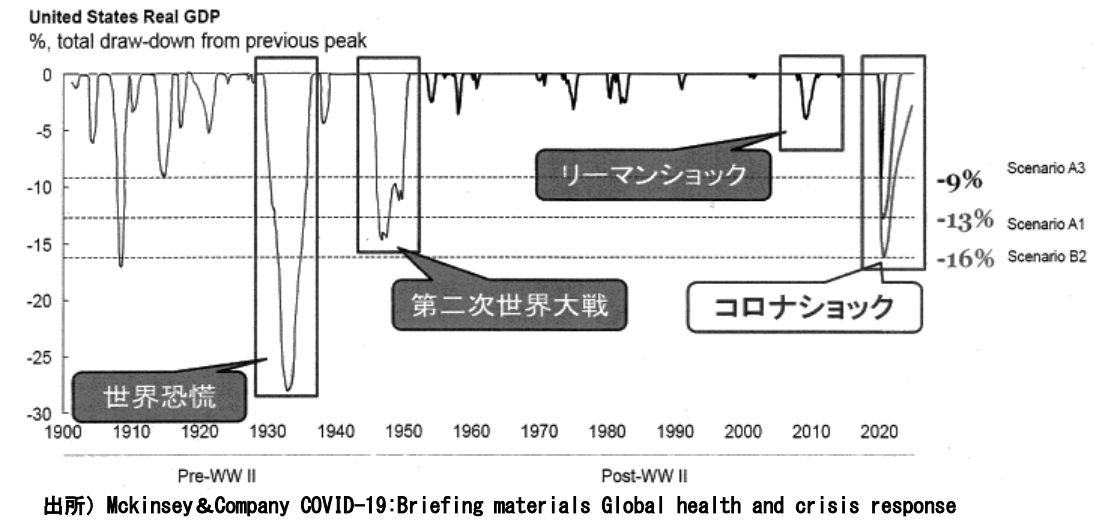
ポストコロナ時代においても企業の要諦は、「人財」です。そして人財を育む土壌となるものが「社風」や「よき伝統」です。中国古典に「人もし竜門に入らば」（正法眼蔵随聞記）の教えがあります。山西省と陝西省との境に「竜門」と呼ばれる場所があり、この「竜門」は大きな滝になっていて、魚がここを遡ると竜になるという古い伝説です。竜を優れた社員とすれば、会社にも「竜門」というものがあって、社員（魚）たちが何気なく通過しながら、成長し素晴らしい社員（竜）へと変身する、そんな竜門、よき伝統を残しつつ社員を育むことのできる社風をどう築くかが鍵です。

「If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.」

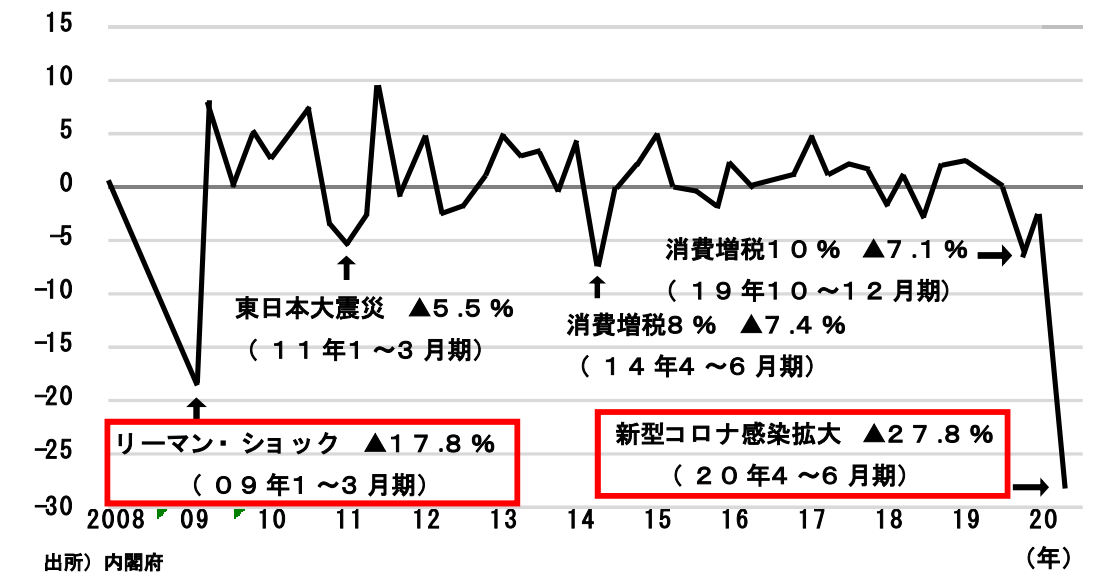
（早く行きたいなら、1人でいきなさい。速くに行きたいなら、みんなでいきなさい。/ ゴア元米国副大統領のノーベル平和賞を受賞時のコメント-アフリカの諺）-当社としては、諺の如くコロナ禍の緊急事態への対処から、新たな世界へと踏み出すという今の時代を、より遠くへ行けるよう、あすなる会の皆様と力を合わせ、1歩1歩進んでいきます。

2020年9月吉日

米国実質GDPの推移から見る2020年 コロナショックの影響予測

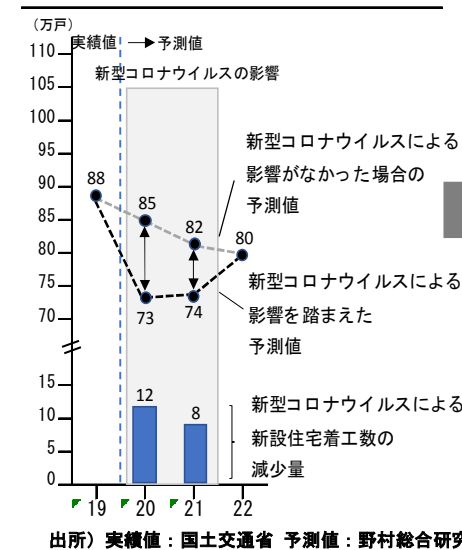


日本国内における実質GDP成長率の推移（年率換算・季節調整済）



日本国内におけるGDP成長率マイナス幅（年率換算）は戦後最悪の状況。コロナ危機により住宅市況の悪化は今後本格化するととの予測。

新設住宅着工数の実績と短期的予測



四半期ごとの新設住宅着工数の短期的予測

